

令和6年産 仙南稲作情報（第4号）

令和6年7月12日発行
宮城県大河原農業改良普及センター
TEL：0224-53-3496 FAX：0224-53-3138
※この資料に関する問い合わせは、
上の連絡先までお願いします。

- 5月上旬移植の南部平坦「ひとめぼれ」は、7月20日頃には出穂期に到達する見込み。出穂後は「飽水管理」を行う。
- 高温による品質低下を防ぐため、減数分裂期追肥が有効。
- 斑点米カメムシ対策として、水田周辺の雑草地、農道、けい畔などの草刈りは、可能な限り速やかに完了させる。
- 斑点米カメムシの発生量が多い。出穂期が早くなるため、適期の薬剤防除を徹底しましょう。

1 気象経過（丸森アメダス、6月1日～7月9日）

- ・6月23日頃に梅雨入りしたが、雨天が少なく、平年に比べて日照時間がかなり長かった（132%）。また、6月上旬に一時的な低温傾向になったものの、その後高温傾向が強くなり、真夏日も多くなり、期間中の平均気温は平年値よりも非常に高く（+2.7℃）推移した。

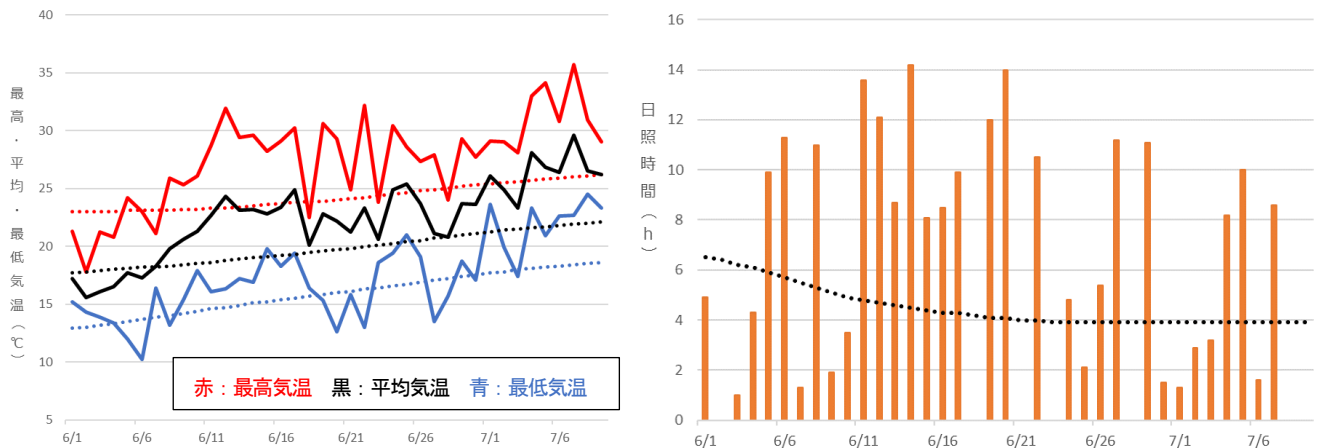


図1 気象経過（丸森アメダス、6月1日～7月9日）

※仙台管区气象台（7/4発表）の「向こう1か月の天候の見通し」では、東北地方太平洋側の日照時間は「平年並か少ない」、降水量は「平年並か多い」、気温は「高い」見込みです。特に期間の前半（7/6～7/19）は、高くなる見込みです。

2 管内の生育状況

(1) 【7月10日調査結果】

5月下旬移植の調査ほを除き幼穂形成期は過ぎており、生育は極めて早い。

- ・生育期間全体で令和5年度並の高温多照で推移しており、生育がかなり早まっています。
- ・南部平坦の「ひとめぼれ」は、生育調査ほの幼穂長が約80mmで「減数分裂期」となっており、5月上旬移植の一般ほ場では「減数分裂期」を過ぎている可能性が高いと思われます。
- ・南部平坦の5月上旬植え「つや姫」は、幼穂長が2mmを超え「幼穂形成期」を過ぎています。

5月下旬植えでは、1mm以下の幼穂長が観察されており、ほ場によっては「幼穂形成期」に入っているとみられます。

- 西部丘陵の「ひとめぼれ」は、幼穂長が2mmを超え「幼穂形成期」を過ぎています。移植時期が早い場合は、ほ場により「減数分裂期」に入っているとみられます。
- 山間高冷の「やまのしずく」は、茎数が平年よりも少なく、葉色は濃くなっています。既に幼穂長が2mmを超えており「幼穂形成期」は過ぎてっているとみられます。

□ 皆さんのほ場と場所や品種、田植日が近いところのデータを参考にしてください。

表1 管内の生育調査結果（7月10日）

No	ほ場所在地	地帯区分	品種	田植		草丈			茎数			葉数			葉色			幼穂長		
				本年	前年	(cm)	平年比	前年比	(本/m ²)	平年比	前年比	(枚)	平年差	前年差	(GM)	平年差	前年差	(mm)	平年差	前年差
1	角田市	南部平坦	ひとめぼれ	5/12	5/11	71.3	108%	97%	394	92%	93%	12.7	+1.0	+0.4	39.1	-0.3	-0.7	78.1	+67.0	+42.4
2	白石市	西部丘陵	ひとめぼれ※	5/18	5/18	66.3	118%	105%	346	90%	80%	10.9	+0.1	-0.7	44.6	+2.9	+0.9	10.2	+9.2	+9.6
「ひとめぼれ」平均				5/15	5/14	68.8	113%	101%	370	91%	86%	11.8	+0.6	-0.2	41.9	+1.3	+0.1	44.2	+38.1	+26.0
3	角田市	南部平坦	つや姫※	5/24	5/24	57.8	90%	86%	297	61%	65%	9.5	-1.1	-1.6	43.3	-0.5	+0.5	0.2	-0.5	-0.0
4	村田町	南部平坦	つや姫※	5/4	5/2	67.8	102%	97%	465	101%	85%	10.9	-0.4	-0.6	38.0	-3.1	-2.6	8.6	+5.8	+4.9
5	七ヶ宿町	山間高冷	やまのしずく	5/27	5/25	61.3	111%	109%	416	79%	90%	未調査	-	-	48.0	+3.8	+6.0	2.5	+1.7	+1.1

◆ 平年値は前5か年(R元~R5)の平均値

※白石市「ひとめぼれ」及び七ヶ宿町「やまのしずく」は今年度から調査ほ場を変更しているため、平年比・差や前年比・差は参考。

※R4年度の角田市「つや姫」は葉身が細く、葉色を計測できなかったため、平年値から除外している。

※村田町「つや姫」は調査5年目のため過去4年の平均値を平年値とした。

※七ヶ宿町「やまのしずく」のみ、7月9日に調査を実施している。

(2) 「だて正夢」(粘りの強い低アミロース米)

- 西部丘陵の「だて正夢」は、幼穂長が1mmを超え、「幼穂形成期」に達してきているとみられます。草丈・茎数はほぼ平年並、葉数は進んでおり、葉色は平年よりもやや淡くなっています。

表2 だて正夢の生育調査結果（7月10日実施）

ほ場所在地	地帯区分	品種	田植		草丈			茎数			葉数			葉色			幼穂長		
			本年	前年	(cm)	平年値	平年比	(本/m ²)	平年値	平年比	(枚)	平年値	平年差	(GM)	平年値	平年差	(mm)	平年値	平年差
蔵王町	西部丘陵	だて正夢	5/22	5/19	68.5	68.6	100%	440	461.7	95%	11.4	10.0	+1.4	43.6	45.1	-1.5	1.3	1.1	+0.1

3 今後の管理

(1) 生育ステージの予測

表3 幼穂の発育過程と出穂期までの日数等の目安

発育過程	幼穂形成期	減数分裂期	
		始期	終期
出穂前日数	25日	15日	12日
幼穂長(mm)	1~2	30~40	80~100
葉耳間長(cm)	-	-10	± 0

○葉色や生育ステージのほ場間差が見られます。今後は、生育状況に応じた追肥や、病害虫防除の実施が重要です。

○生育ステージは、「ほ場ごと」に異なるので、「ほ場ごと」に幼穂長を測定するなど、正確な生育ステージを把握に努めましょう。

(2) 水管理

○中干し終了後、出穂期までは「かん水」してから自然落水し、2～3日田面を乾かしてから「かん水」する「間断かん水」を行い、根に十分に水分と酸素を供給しましょう。

○出穂期は稲が必要とする水分が多くなります。出穂期には湛水しましょう。

○出穂期以降は、高温による品質低下を少しでも防ぐため、「飽水管理※」を行い、土壌を湿潤状態で保ちましょう（出穂後30日頃まで）。

💡 倒伏が心配される復元田等では、目標茎数を確保後、落水期まで自然落水後に田面を乾かす期間を長めにとりながら、「間断かんがい」を行いましょう。根の健全化と茎の充実を図る水管理です。

💡 用水の確保が難しい場合は、幼穂形成期～出穂期までは飽水管理とし、ほ場を湿潤状態に保ってください。また、出穂期はできるだけ浅水管理～間断かん水とし、用水が不足する場合は飽水管理としてください。

※飽水管理の方法

- ①水尻を閉め、畦畔からの漏水が無いか確認する。
- ②田面が浸るくらい（ひたひた）に水を入れる。
- ③水を止めたら水尻を閉めたまま、自然減水させる。
- ④水田の足跡に水が無くなる頃、または番水のタイミングで次の水を入れる（目安は3～5日おき）。

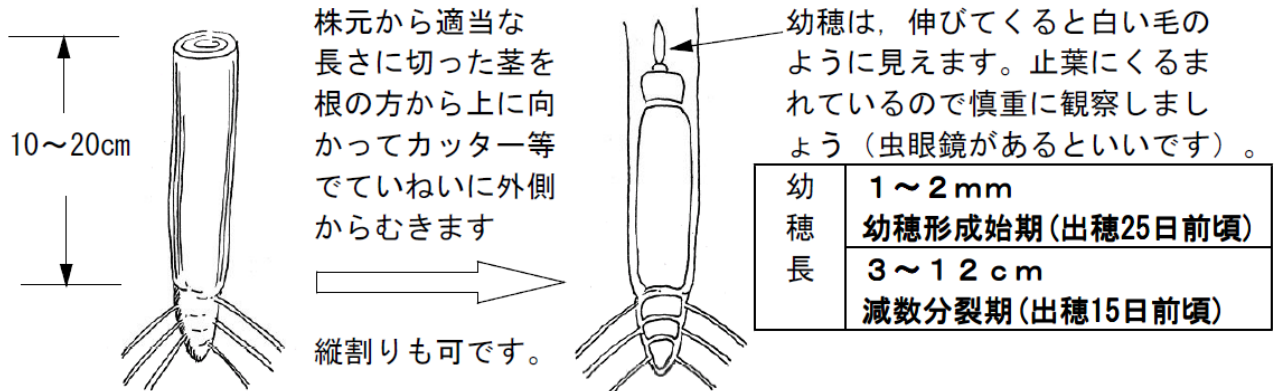
◎飽水管理は、地温の上昇を抑制し、白未熟粒の発生を抑制できます。

(3) 追肥

□ **高温による品質低下を防ぐため、減数分裂期の追肥を実施**しましょう。

- ・追肥は、幼穂長を調べて、「幼穂形成期」又は「減数分裂期」に行いましょう。
※品種によって、追肥回数や追肥時期が異なりますので、次項を参照ください。
- ・幼穂形成期の追肥は、分けつの退化防止と1穂粒数の増加に効果的です。
しかし、追肥量が多すぎると、下位節間を伸長させ倒伏を引き起こしたり、粒数過剰となり登熟不良を招いてしまいます。
- ・減数分裂期の追肥は、登熟初期の光合成能力向上により、登熟歩合の向上や乳白粒等の低減効果が期待されます。

【幼穂長の調べ方】



※適正な追肥量は食味に影響しません。

□ 追肥の判断について

- ・葉色を測定して、葉色が目安の範囲内以下でしたら追肥をしましょう！なお、今年度の気象経過から、葉色は平年よりも淡くなっている傾向だと思われます。
- ・葉色の測定は、「葉緑素計（SPAD-502）」又は「葉色板（富士平工業の7段階表示のカラースケール）」を用います。
- ・下表の葉色板又は葉緑素計の値から追肥の判断ができます。

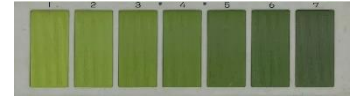


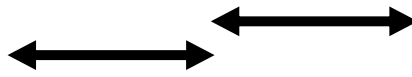
表4 葉色板（単葉）と葉緑素計の関係

葉色板(単葉)	4.5		5.0			5.5		6.0			6.5				
葉緑素計	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48

※幼穂形成期における施肥判断の目安

ひとめぼれ

つや姫・まなむすめ



○穂肥要否判定指標値及び目安

品種名	幼穂形成期			減数分裂期		
	葉色		施用時期と窒素量	葉色		施用時期と窒素量
	葉色板	葉緑素計		葉色板	葉緑素計	
ひとめぼれ	5.0~5.5	38~40	出穂25~20日前 1kg/10a	4.5~5.0	35~37	出穂15~10日前 1kg/10a
つや姫・まなむすめ	4.5~5.0	35~37	出穂25~20日前 2kg/10a	—		
ササニシキ	—			3.4~3.7	32~34	出穂15~10日前 1~1.5kg/10a
だて正夢	—			5.0	37~39	出穂15~10日前 2kg/10a

※「だて正夢」の追肥について

- ・「だて正夢」の追肥は、減数分裂期に窒素成分で2kg/10aを施用することが基本です。
- ・ただし、有効茎数の不足が予想される場合は、幼穂形成期と減数分裂期に窒素成分でそれぞれ1kg/10aずつ施用してください。

項目	幼穂形成期	減数分裂期
草丈(cm)	64~70	76~82
茎数(本/m ²)	390~460	380~420
葉色(SPAD値)	40~42	37~39
葉色板(単葉)	5.5~6.0	5.0

(4) 病虫害防除

①いもち病

- ・発生予報は平年並（7月8日発表）。
- ・ほ場の見回りと穂いもちの予防防除に努めましょう。

- ・葉いもちの感染に好適な気象条件(19~25℃)に近い気温で推移しています。上位葉の葉いちは穂いもちの発生源となるため、今後重要な時期が続きます。
- ・箱施用剤を使用している場合でも7月中旬以降効果が低下するため、ほ場の見回りを行い、発生が見られた際は速やかに茎葉散布剤で防除してください。

②斑点米カメムシ類

□場所によっては10日以内に出穂すると予想されるため、水田周辺の雑草地、農道、けい畔などの草刈りは、可能な限り速やかに完了させる（今年度は、令和5年度と同様に**出穂が大幅に早まる見込み**です）。

※稲の出穂期前後に草刈りを行うと、カメムシ類を水田に追い込んでしまうので、草刈り時期を逸さないようにしましょう。

※管内市町の予察調査では、斑点米カメムシの発生量が5割ほど多くなっています。

□出穂期以降の薬剤防除

- 薬剤防除は、**穂揃期とその7～10日後の2回防除**が基本です。
- ホタルイ残草田では、1回目の防除時期を早めましょう（出穂始～穂揃期）。
- 出穂後、やむを得ず水田周辺の牧草等を刈取る場合は、刈取り後直ちに水田の薬剤防除を実施しましょう。

□雑草刈取り及び薬剤防除は広域的に行うと効果が高いので、地域一斉防除に努めましょう。

□水田内にヒエやイヌホタルイ等の雑草があると、出穂前でもカメムシ類が水田内に生息しています。出穂前に、水田内の雑草を防除しておきましょう！



< 斑点米カメムシ類 >

※本県の主要種：アカスジカスミカメ

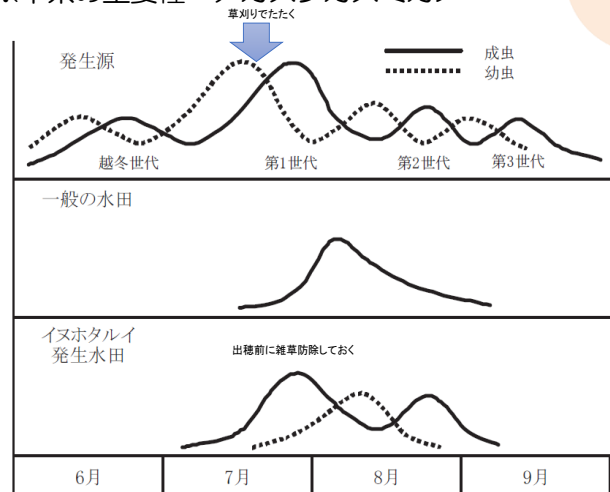
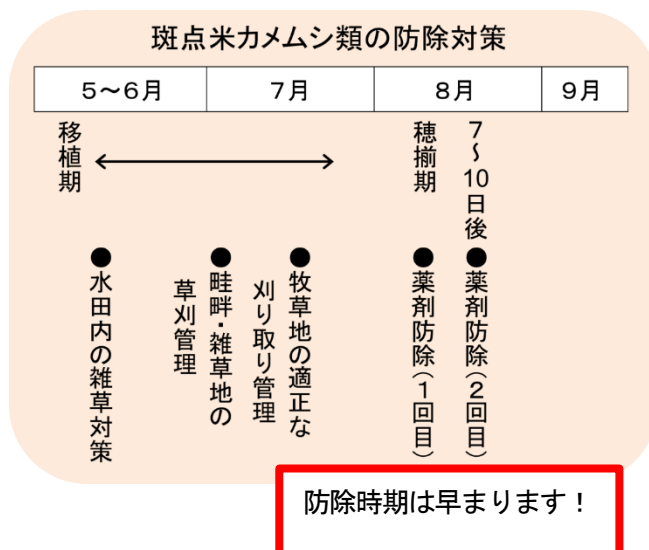


図 アカスジカスミカメの発生源及び水田における発生消長



③イネカメムシ

< イネカメムシ >

- 令和5年度に、福島県内でイネカメムシの発生が確認されました。イネカメムシは、斑点米や不稔による減収の被害を生じさせます。
- イネカメムシの体長は**12～13 mm程度**です。イネカメムシや形状がよく似たカメムシを見つけた場合は、大河原農業改良普及センターや県病害虫防除所へ情報提供をお願いします。

○大河原農業改良普及センター先進技術第一班 TEL: 0224-53-3496

○病害虫防除所予察班

TEL: 022-275-8982

4 直播栽培における管理のポイント

【7月10日調査結果】

- ・湛水直播栽培の普及展示ほの生育は、草丈・葉数・葉色は平年並となっており、莖数は平年よりも少ないですが、有効莖数は確保されています。幼穂長は0.46mmでももなく「幼穂形成期」に入ると考えられます。

表5 生育調査結果（7月10日）

ほ場所在地	品種	播種月日		苗立数(本/m ²)		草丈			莖数			葉数			葉色		
		本年	前年	本年	前年	(cm)	平年値	平年比	(本/m ²)	平年値	平年比	(枚)	平年値	平年差	(GM)	平年値	平年差
蔵王町	ひとめぼれ	5/10	5/10	52.5	47.6	56.0	55.5	101%	419	517	81%	10.0	10.0	+0.0	43.8	43.7	+0.1

① 水 管 理

- ・中干し以降の水管理は、移植栽培と同様に「間断かん水」としますが、田面を乾かして倒伏を防止するため、乾かす期間を長めにとりましょう。

② 追 肥

- ・減数分裂期に1回、窒素成分量で10a当たり1kgの追肥を考慮しましょう。
ただし、倒伏等が懸念される場合は、追肥を控えましょう。

③病害虫防除

【葉いもち】

- ・葉いもちの早期発見・早期防除に努めましょう。
- ・一旦発病すると移植栽培より急激に病勢が進展するケースが多いので、初発の確認が遅れないようにしましょう。

【イネツトムシ（イチモンジセサリ）】

- ・イネツトムシは、直播栽培で多発し、大きな被害を及ぼすことがあります。
- ・直播栽培では、7月中旬頃の葉色が濃く、成虫が集中して産卵するので、移植栽培に比べて被害が多くなります。
- ・被害に気がついたときには、殺虫剤の効果が出にくい中～老齢虫になっており、防除適期を逃していることがよくあります。
- ・発生予察情報や現場の発生状況をもとに、8月上旬頃の若齢幼虫の発生最盛期に防除しましょう。

○令和6年度宮城県農薬危害防止運動実施中（6/1～8/31）

- 農薬の使用に当たっては、

農薬のラベルをよく読み、周辺へ配慮し、飛散防止対策を徹底しましょう！

- 最新の農薬情報は、農林水産省ホームページで確認できます。

(https://www.maff.go.jp/j/nouyaku/n_tekisei/index.html)



○これから暑い時期を迎えます。熱中症に注意しましょう！